

令和 2 年度大分県学力定着状況調査結果総括

令和 2 年度大分県学力定着状況調査結果総括（佐伯市・小学校）

<p>国 語</p> <p>＜結果概況＞</p> <p>○偏差値は、知識、活用ともに50を上回り、正答率も目標値（知識73.1、活用60.0）を上回った。</p> <p>○領域別では、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が全県と同値であったが、その他の3領域は下回った。</p> <p>＜課題と対策＞</p> <p>○問題の内容別に見ると、「言葉の学習」「ちらしをもとに話し合う」「作文」の問題で県の正答率を2ポイント以上下回った。その中の「相手や目的に応じて話す問題」での正答率が低く、無解答も12.3%と高かった。わからないこと、聞きたいこと等を明確にして話の内容を理解する力を付ける必要がある。また、「作文」については、無解答率が10.3%であった。文の長さ、段落構成、自分の意見の明確化等、条件や目的に応じて記述をする指導を継続したい。</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;"></th> <th style="width: 45%;">知識</th> <th style="width: 45%;">活用</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>偏差値</td> <td style="text-align: center;">51.4 (51.8)</td> <td style="text-align: center;">50.5 (51.6)</td> </tr> <tr> <td>正答率</td> <td style="text-align: center;">74.9 (75.6)</td> <td style="text-align: center;">60.6 (63.7)</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td colspan="2" style="text-align: center;">68.6 (70.1)</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right; font-size: small;">()は県の数値</p>		知識	活用	偏差値	51.4 (51.8)	50.5 (51.6)	正答率	74.9 (75.6)	60.6 (63.7)	達成率	68.6 (70.1)	
	知識	活用											
偏差値	51.4 (51.8)	50.5 (51.6)											
正答率	74.9 (75.6)	60.6 (63.7)											
達成率	68.6 (70.1)												
<p>算 数</p> <p>＜結果概況＞</p> <p>○偏差値は、知識、活用ともに50を上回った。正答率は、知識は目標値（72.1）を上回ったが、活用は目標値（活用52.0）を下回った。</p> <p>○領域別では、「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」の4領域で全県の数値を下回った。</p> <p>＜課題と対策＞</p> <p>○問題の内容別に見ると、「億と兆・がい数の表し方」「小数」「角の大きさ」「計算のきまり・変わり方調べ」で県の正答率を2ポイント以上下回った。特に、「数の相対的な大きさの理解」「分配法則の理解」に課題が残るとともに「問題から立式し小数のかけ算・わり算を解く問題」の正答率が低くなった。数の大小や計算の意味・きまりを理解できるよう具体的事例や場面を活用しながら指導していく必要がある。また、小数のかけ算やわり算について基礎的な計算の技能の習熟を大切に、算数で学習した用語を使って説明させたり記述させたりする指導につなげたい。</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;"></th> <th style="width: 45%;">知識</th> <th style="width: 45%;">活用</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>偏差値</td> <td style="text-align: center;">51.6 (52.1)</td> <td style="text-align: center;">50.6 (51.2)</td> </tr> <tr> <td>正答率</td> <td style="text-align: center;">73.6 (74.6)</td> <td style="text-align: center;">51.2 (52.7)</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td colspan="2" style="text-align: center;">70.0 (69.3)</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right; font-size: small;">()は県の数値</p>		知識	活用	偏差値	51.6 (52.1)	50.6 (51.2)	正答率	73.6 (74.6)	51.2 (52.7)	達成率	70.0 (69.3)	
	知識	活用											
偏差値	51.6 (52.1)	50.6 (51.2)											
正答率	73.6 (74.6)	51.2 (52.7)											
達成率	70.0 (69.3)												
<p>理 科</p> <p>＜結果概況＞</p> <p>○偏差値は、知識が50を上回った。活用は50を下回った。正答率は、知識は目標値（69.8）を下回ったが、活用は目標値（55.5）と同値であった。</p> <p>○領域別では、「物質・エネルギー」「生命・地球」とともに、全県の数値を下回った。</p> <p>＜課題と対策＞</p> <p>○問題の内容別に見ると、「天気の様子と気温」「物の体積と力」「物の温まり方」の内容で、県の正答率を2ポイント以上下回った。その中の「気温の変化を折れ線グラフに表す問題」「閉じ込めた空気を押し縮めたときの手応えを問う問題」「水の温まり方をもとに示温インクの色の変化を推測する問題」では、県の正答率を大きく下回った。日常の中で起こる事象とその理由について、予想をもとに実験を行い、結果と事象を関係付けながら説明させる指導を行う必要がある。また、実験観察の過程や結果をノートに記述し振り返る活動も繰り返し行いたい。</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;"></th> <th style="width: 45%;">知識</th> <th style="width: 45%;">活用</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>偏差値</td> <td style="text-align: center;">50.3 (50.9)</td> <td style="text-align: center;">49.9 (50.3)</td> </tr> <tr> <td>正答率</td> <td style="text-align: center;">68.5 (69.6)</td> <td style="text-align: center;">55.5 (56.5)</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td colspan="2" style="text-align: center;">63.2 (65.7)</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right; font-size: small;">()は県の数値</p>		知識	活用	偏差値	50.3 (50.9)	49.9 (50.3)	正答率	68.5 (69.6)	55.5 (56.5)	達成率	63.2 (65.7)	
	知識	活用											
偏差値	50.3 (50.9)	49.9 (50.3)											
正答率	68.5 (69.6)	55.5 (56.5)											
達成率	63.2 (65.7)												

※表内の数値緑は県の数値以上、赤は県の数値未満

令和2年度大分県学力定着状況調査結果総括（佐伯市・中学校）

<p>国 語 <結果概況> ○偏差値は、知識、活用ともに50を上回り、正答率も目標値（知識71.8、活用62.2）を上回った。 ○領域別では、「話すこと・聞くこと」「読むこと」で全県の正答率を上回ったが、「書くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」では下回った。</p> <p><課題と対策> ○問題の内容別に見ると「漢字を読む」「漢字を書く」「作文」で県の正答率を下回った。漢字の読み書きについては、習得を目指した時間を計画的に設定するとともに、同音異義等、漢字のもつ特色についても指導する必要がある。また、作文の無解答が8.8%であることから、文字数、段落構成、読み取った内容や自分の考えの明確化等を視点に、条件や目的に合わせて文章を書く機会を取り入れたい。</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;"></th> <th style="width: 45%;">知識</th> <th style="width: 45%;">活用</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>偏差値</td> <td style="color: green;">53.1 (53.0)</td> <td style="color: green;">53.3 (53.0)</td> </tr> <tr> <td>正答率</td> <td style="color: green;">79.3 (79.1)</td> <td style="color: green;">75.1 (74.1)</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td colspan="2" style="color: red;">82.3 (82.6)</td> </tr> </tbody> </table>		知識	活用	偏差値	53.1 (53.0)	53.3 (53.0)	正答率	79.3 (79.1)	75.1 (74.1)	達成率	82.3 (82.6)	
	知識	活用											
偏差値	53.1 (53.0)	53.3 (53.0)											
正答率	79.3 (79.1)	75.1 (74.1)											
達成率	82.3 (82.6)												
<p>社 会 <結果概況> ○偏差値は、知識、活用ともに50を上回った。正答率は、知識は目標値（56.0）を上回ったが、活用は目標値（41.9）は下回った。 ○領域別では、全ての領域で県の正答率を上回った。</p> <p><課題と対策> ○問題の内容別に見ると、「飛鳥時代～平安時代」のみがわずかに県の正答率に及ばなかったが、その他の5つの内容は上回った。その中で「インドでIT関連産業が発展した背景について複数の資料をもとに表現する問題」の無解答率が高かった。資料から社会的事象を多面的・多角的に読み取り、表現する機会を意図的・計画的に取り入れる必要がある。</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;"></th> <th style="width: 45%;">知識</th> <th style="width: 45%;">活用</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>偏差値</td> <td style="color: green;">54.1 (52.8)</td> <td style="color: green;">51.4 (51.3)</td> </tr> <tr> <td>正答率</td> <td style="color: green;">64.7 (62.0)</td> <td style="color: green;">41.7 (41.3)</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td colspan="2" style="color: green;">69.6 (64.6)</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">()は県の数値</p>		知識	活用	偏差値	54.1 (52.8)	51.4 (51.3)	正答率	64.7 (62.0)	41.7 (41.3)	達成率	69.6 (64.6)	
	知識	活用											
偏差値	54.1 (52.8)	51.4 (51.3)											
正答率	64.7 (62.0)	41.7 (41.3)											
達成率	69.6 (64.6)												
<p>数 学 ○偏差値は、知識、活用ともに50を上回り、正答率も目標値（知識61.5、活用50.0）を上回った。 ○領域別では、全ての領域で県の正答率を上回った。</p> <p><課題と対策> ○問題の内容7つ全てで県の正答率を上回った。正答率が50%以下の問題も29問中5問と少なく、日常的な指導の成果が表れているといえる。ただ、「度数分布多角形から読み取った傾向をもとに説明する問題」は、無解答率が32.0%となった。問題文の読解、資料の読み取りとともに事実、予想できる事柄、理由、方法などを説明する活動を日常的に行う必要がある。</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;"></th> <th style="width: 45%;">知識</th> <th style="width: 45%;">活用</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>偏差値</td> <td style="color: green;">55.9 (53.4)</td> <td style="color: green;">53.6 (51.5)</td> </tr> <tr> <td>正答率</td> <td style="color: green;">71.0 (64.9)</td> <td style="color: green;">54.7 (49.0)</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td colspan="2" style="color: green;">70.7 (62.0)</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">()は県の数値</p>		知識	活用	偏差値	55.9 (53.4)	53.6 (51.5)	正答率	71.0 (64.9)	54.7 (49.0)	達成率	70.7 (62.0)	
	知識	活用											
偏差値	55.9 (53.4)	53.6 (51.5)											
正答率	71.0 (64.9)	54.7 (49.0)											
達成率	70.7 (62.0)												
<p>理 科 ○偏差値は、知識、活用ともに50を上回った。正答率は、知識は目標値（58.4）を上回ったが、活用は目標値（51.4）を下回った。 ○領域別では、全ての領域で県の正答率を上回った。</p> <p><課題と対策> ○問題の内容別に見ると、「地層」のみがわずかに県の正答率に及ばなかったが、その他の10の内容は上回った。ただ、「地形のでき方を説明する問題」は正答率が32.2%と低く、無解答率は26.3%と高かった。観察や実験の経過や結果を順序立てて文章でまとめる指導を行うことや、事象の因果関係や相関関係等について説明する活動を充実させることが必要である。</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;"></th> <th style="width: 45%;">知識</th> <th style="width: 45%;">活用</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>偏差値</td> <td style="color: green;">52.5 (51.2)</td> <td style="color: green;">51.5 (50.5)</td> </tr> <tr> <td>正答率</td> <td style="color: green;">61.5 (58.9)</td> <td style="color: green;">49.4 (47.0)</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td colspan="2" style="color: green;">62.5 (58.3)</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">()は県の数値</p>		知識	活用	偏差値	52.5 (51.2)	51.5 (50.5)	正答率	61.5 (58.9)	49.4 (47.0)	達成率	62.5 (58.3)	
	知識	活用											
偏差値	52.5 (51.2)	51.5 (50.5)											
正答率	61.5 (58.9)	49.4 (47.0)											
達成率	62.5 (58.3)												
<p>英 語 ○偏差値は、知識、活用ともに50を上回り、正答率も目標値（知識68.8、活用50.4）を上回った。 ○領域別では、全ての領域で県の正答率を上回った。</p> <p><課題と対策> ○10の問題内容全てで県の正答率を上回り、指導の成果が表れているといえる。ただ「読み取った内容を踏まえて、英文を完成させる問題」「対話の流れに合った英文を書く問題」は、正答率が低く無解答率が高かった。ある程度の分量の英文の概要や要点を読み取り書く活動につなげたり、対話練習から書く活動につなげたりする等、複数の領域を関連づける総合的な指導を行うことが必要である。</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;"></th> <th style="width: 45%;">知識</th> <th style="width: 45%;">活用</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>偏差値</td> <td style="color: green;">52.8 (51.6)</td> <td style="color: green;">52.8 (51.3)</td> </tr> <tr> <td>正答率</td> <td style="color: green;">74.1 (71.3)</td> <td style="color: green;">57.5 (53.3)</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td colspan="2" style="color: green;">68.0 (63.1)</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">()は県の数値</p>		知識	活用	偏差値	52.8 (51.6)	52.8 (51.3)	正答率	74.1 (71.3)	57.5 (53.3)	達成率	68.0 (63.1)	
	知識	活用											
偏差値	52.8 (51.6)	52.8 (51.3)											
正答率	74.1 (71.3)	57.5 (53.3)											
達成率	68.0 (63.1)												

※表内の数値緑は県の数値以上、赤は県の数値未満